

Nippak-Shimbun

31 de Outubro de 1926 N.495

Director Sack Miura

Tel. Cet. 6183 Caixa 375 S.Paulo

日伯新聞

資金問題解決

正金銀行困る所なし

八五低資は今回愈々最後の決

定を見た、月の二十二日から二

十六日まで聖市總領事館で大使

館から赤松代理大使、市毛書記

官バウルからコンスルファアゼン

デイロ多羅間鉄補、サンバウロ

に景物として星名謙一郎間崎三

三一坂本留四郎などを加へ、ヤ

ツアモツサやつた揚句曲りなり

にも實行に入る段取りと迄譲り

付けた。

▲前回正金銀行の態度を難して

おいたが、停頓の原因は強ち正

金ばかりでもなく、政府者間の

葛藤問答も大にあづかつて居る

▲銀行のルールを外れて仕事をす

三一坂本留四郎などを加へ、ヤ

ツアモツサやつた揚句曲りなり

にも實行に入る段取りと迄譲り

付けた。

▲前回正金銀行の態度を難して

おいたが、停頓の原因は強ち正

金ばかりでもなく、政府者間の

葛藤問答も大にあづかつて居る

▲銀行のルールを外れて仕事をす

三一坂本留四郎などを加へ、ヤ

ツアモツサやつた揚句曲りなり

にも實行に入る段取りと迄譲り

付けた。

▲前回正金銀行の態度を難して

おいたが、停頓の原因は強ち正

金ばかりでもなく、政府者間の

葛藤問答も大にあづかつて居る

▲銀行のルールを外れて仕事をす

三一坂本留四郎などを加へ、ヤ

ツアモツサやつた揚句曲りなり

にも實行に入る段取りと迄譲り

付けた。

▲前回正金銀行の態度を難して

おいたが、停頓の原因は強ち正

金ばかりでもなく、政府者間の

葛藤問答も大にあづかつて居る

▲銀行のルールを外れて仕事をす

三一坂本留四郎などを加へ、ヤ

ツアモツサやつた揚句曲りなり

にも實行に入る段取りと迄譲り

付けた。

▲前回正金銀行の態度を難して

おいたが、停頓の原因は強ち正

金ばかりでもなく、政府者間の

葛藤問答も大にあづかつて居る

▲銀行のルールを外れて仕事をす

三一坂本留四郎などを加へ、ヤ

ツアモツサやつた揚句曲りなり

にも實行に入る段取りと迄譲り

付けた。

▲前回正金銀行の態度を難して

おいたが、停頓の原因は強ち正

金ばかりでもなく、政府者間の

葛藤問答も大にあづかつて居る

▲銀行のルールを外れて仕事をす

三一坂本留四郎などを加へ、ヤ

ツアモツサやつた揚句曲りなり

にも實行に入る段取りと迄譲り

付けた。

▲前回正金銀行の態度を難して

おいたが、停頓の原因は強ち正

金ばかりでもなく、政府者間の

葛藤問答も大にあづかつて居る

▲銀行のルールを外れて仕事をす

三一坂本留四郎などを加へ、ヤ

ツアモツサやつた揚句曲りなり

にも實行に入る段取りと迄譲り

付けた。

▲前回正金銀行の態度を難して

おいたが、停頓の原因は強ち正

金ばかりでもなく、政府者間の

葛藤問答も大にあづかつて居る

▲銀行のルールを外れて仕事をす

三一坂本留四郎などを加へ、ヤ

ツアモツサやつた揚句曲りなり

にも實行に入る段取りと迄譲り

付けた。

▲前回正金銀行の態度を難して

おいたが、停頓の原因は強ち正

金ばかりでもなく、政府者間の

葛藤問答も大にあづかつて居る

れ正金の金として貸出される所

から後日若し回収不能コグッキ

でも出来る事、銀行の傳統的聲

は伯國にゐる者の意見を上台と

名に傷を付けると云ふ心配があ

る、否それよりも任に其事に當

▲銀行はどんなことがあつても

▲銀行はどんなことがあつても

▲銀行はどんなことがあつても

▲銀行はどんなことがあつても

▲銀行はどんなことがあつても

▲銀行はどんなことがあつても

▲銀行はどんなことがあつても

れ正金の金として貸出される所

から後日若し回収不能コグッキ

でも出来る事、銀行の傳統的聲

は伯國にゐる者の意見を上台と

名に傷を付けると云ふ心配があ

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

れ正金の金として貸出される所

から後日若し回収不能コグッキ

でも出来る事、銀行の傳統的聲

は伯國にゐる者の意見を上台と

名に傷を付けると云ふ心配があ

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

れ正金の金として貸出される所

から後日若し回収不能コグッキ

でも出来る事、銀行の傳統的聲

は伯國にゐる者の意見を上台と

名に傷を付けると云ふ心配があ

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

れ正金の金として貸出される所

から後日若し回収不能コグッキ

でも出来る事、銀行の傳統的聲

は伯國にゐる者の意見を上台と

名に傷を付けると云ふ心配があ

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

れ正金の金として貸出される所

から後日若し回収不能コグッキ

でも出来る事、銀行の傳統的聲

は伯國にゐる者の意見を上台と

名に傷を付けると云ふ心配があ

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

れ正金の金として貸出される所

から後日若し回収不能コグッキ

でも出来る事、銀行の傳統的聲

は伯國にゐる者の意見を上台と

名に傷を付けると云ふ心配があ

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

る、否それよりも任に其事に當

れ正金の金として貸出される所

から後日若し回収不能コグッキ

でも出来る事、銀行の傳統的聲

は伯國にゐる者の意見を上台と

最近電報

ハントニオ・ラモニ・ジエスカの合併
が傳へられてゐるがルーマニアの國家主義者は合併に反対してゐる

「エムデン」は世界周航ドイツ新驅逐艦エムデン號は近く世界一周の途に上ると

(ペリリン)

本年度のノーベル賞

本年度の医学ノーベル賞はコ

ベンハーゲンのハイビゲル教授

の癌腫研究の功績に對して授與された(コベンハーゲン)

エジプト棉花の暴落のため經濟界に恐慌を來しそのためエジプト内閣は動搖つゝある

(カイロ)

▼駆風ハバナを襲ふ

キューバ島のハバナ市に二十日

駆風襲來死者八十名負傷者二千五百名を生じた(ハバナ)

▼駆風ハバナを襲ふ

歐洲の政治問題殊にタンジール

問題に關し佛國首相ブリアン氏

と伊國首相ムソーリニ氏とは近

々會見するだらう

▼マレタの新薬發見

三名のドイツ人醫師によりマレ

拉斯モシ子と稱する新薬が發見

着した

▼支那革命

上海政府は廣東政府と和議を締

結すべく準備中である

二十六日支那全土に戒嚴令が布

かれた

支那に急行しつゝある英國驅逐

艦は二十七日シンガポールに到

着した

廣東軍總司令官紹介石將軍は戰

死したとの噂あるも廣東政府は

これを打消してゐる

リオ市長決定

メロ・フランコ氏が任命される

内・外・雜組

アシス・リベイロ氏

セントラル線鐵道總裁はアン

ス・リベイロ氏に任命されたと

の風説がある

アントニオ・ラモニ・ジエ

ス・リベイロ氏が去る二十六日任命された

中央總裁は

アントニオ・ラモニ・ジエ

ス・リベイロ氏に任命されたと

の風説がある

アントニオ・ラモニ・ジエ

ス・リベイロ氏が去る二十六日任命されたと

の風説がある

アントニオ・ラモニ・ジエ

ス・リベイロ氏が去る二

長天祝奉節賀會

聖州義塾
利登美林小
市聖

サントンズ
ストンサ
長天祝節賀會

家具商
金山喜三郎
サントス市

藤柳細工商
吉野清郎
聖市アルミランテ
バコーラ街一〇四A

本品直輸入商
一ぱざる
うりすたつーの
梅久田吉
市聖

三共商會
ヤマカ合資商會
サントス市

成 功 館

古謝將義
サントス港

神田榮太郎
サントス港

醤油釀造元

上原商店
レストラン部
サントス市

横濱正金銀行
支店オリ

旅館潮
前田吉太郎
サントンズ
港

長天祝奉



合組業同館旅市聖

末廣	旭	大和	小川	上地	東京館
中山忠太郎	秋田彌三郎	防迫健造	小川源右衛門	上地彌藏	中村渠三郎

商入輸直品本日

會商易貿本日

市 聖

商入輸直品本日

んはやじ

ろうはんさんじ

雄正木鈴

市 聖

業負請築建

組まじめさ

市 聖

盤常館旅御

造桂原石

市 聖

番一十四・九十三・街スダーベルサデンコ

防迫菓子店

オソセレイロ
フルタード五

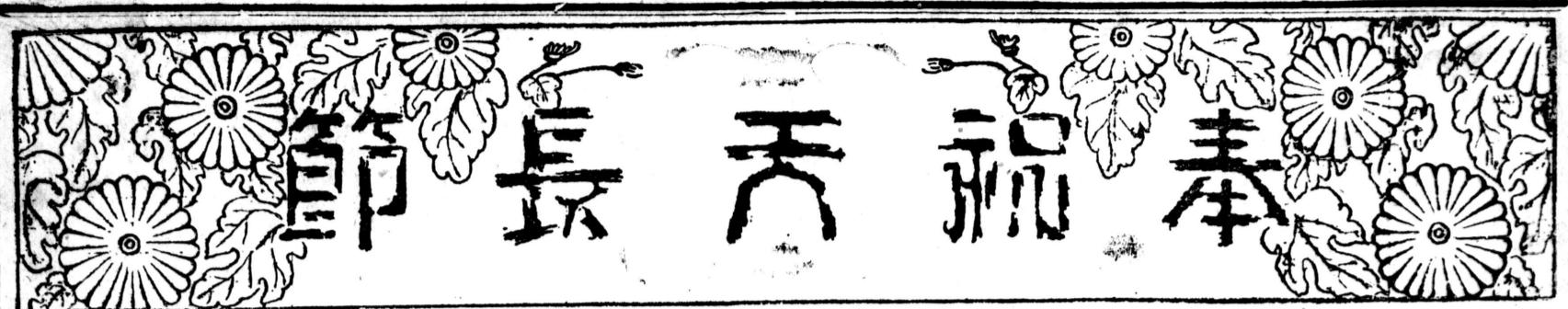
矢部洋服店

矢部政二
プラサ・ダ・セ
二階 売賣室 九番菓子舗
屋のしょ

九四 桃デンコ

ガラージ コングレッソ

聖市 電話 セントラル 八一



眞寫

男 康 田 村

市 壽

歯科醫 村上眞一郎
聖市ルアボニタ九

カーザ 東京
杉本芳之助

商具家
ましろひザーカ
助之京尾中
市 壽

諸機械修繕
竹内鐵工所
竹内金市
聖市カニンデ街二七

家具商 カーザ 日本
本道五郎八
緒方末彦
聖市

蜂谷兄弟商會

本店 リオ、デ、ジャネイロ
支店 サンバウロ市

家具商 カーザ
吉田政之進
職人一同
カーザ ジヤポン

陶器直輸入商
サンバウロ市

伊東商店

低賃大評定

▼ 雜報 ▲

二十一日ノロエスラから多羅間
領事間崎三三一坂本留四郎ソロ
カバナから星名謙一郎などが聖
市に着いたかと思ふと翌二十二
日には餘り繁々来てはキマリの
悪い筈の赤松代理大使差添へと
して市毛二等書記官などが物々
しく乗込んで来た、記者が『例
のですか』と聞くと『さうだ
ばかり其日の午前から春日領
事海本副領事嶺サントス書記生
を加へて伯國の事情を知つてゐ
る者半わかりの者サツバリ解らぬ
者などを加へ九四日間ヤツサモ
ソサの討論會をやり二十六日夕
大体の眼鼻が付いて閉會した、
會議は主に細目の協定で日本と
伯國との事情がちがふ所から之
を知つてゐる者と知らぬ者との間
立つてから又三四十分やり合ふ
やうな工合で意外に長引いた發
表しても差支ない點は左の通り
だと

▲貸主は横濱正金、借主は昨年十月迄
に出した教済金貸付請願書に書いてあ
る地方即ち通稱ノロエスラ銀全額、ノ
ロカバナ銀はアレンデンチブルーテン
テヨから奥アレジョン、ハイベン等に
住んでる農業者に限る、商人はいけな
い國つた者は右の地主だけではないが
政府は前記請願書を証明して貸付金額
をきめたから貸付の範囲は右區域以外
に及ぶことはできない。貸付の目的は
農業者が現に所有し又は買受
の契約を爲せる土地を失ふ
ことを救済するにあり
貸付金額は八十五萬圓で、其内七十六萬
圓はノロエスラ銀に、九萬圓はノロカバ
ナ銀に割り當てる
▲借り手は其所有地を適當として借受
るので之れが貸付は

中は置置され、同十七年から毎年十二月
未日迄に四分の一宛な返済ひ大正二十
年十二月末日迄に償拂つて仕舞ふこと
より乘り合せてゐた松尾七郎は即
行くこと

▲債務者は各地方別に債務開を作り
債務者の負擔とする

▲貸金調査事務に付古蘭書記生がバウル
轉任

關係せしめず上塙周平氏も自分

の管になつたと因に本件

に關係深き栗津暢托は其後一切

抜ふことになつたと件合に本件

の都合で最後の評定には加はれ
ぬ

他厄介なタベクリヨン細工も悉く
一定の形式にした由でこれが爲
めバウル領事館大助りだと、尙

より沙汰止め矢張古蘭書記生が
米突手前で中の車に乗りかへ途

に非業の最後を遂げた由

▲秀才を惜んで二日間休校

松尾七郎はナボレオン松尾とし

て邦人青年間では稀有の秀才で
私立高等電機學校でもいつも首

席で今回の試験も諸科何れも滿

足のアンサードだけでレヂス

トロは試合に來ない。アリアン

二時(三十一日は午前九時)から

リーグ戦は既定の通り三

十日天長祝賀當日を初めに三十

日、十一月一日と三日間午後

死赤間は頭部を破られて間もなく
死亡した七郎はビヨン家具

支店の相場による損益は凡て

負は連帶責任を負ふものとす

し、爲替相場の變動による損益は凡て

債務者の負擔とする

▲貸金の返還は正金銀行

し、爲替相場による損益は凡て

債務者の負擔とする

▲債務者は各地方別に債務開を作り

債務者の負擔とする

▲債務者は各地方別に債務開を作り

債務者の負擔とする

▲債務者は各地方別に債務開を作り

債務者の負擔とする

▲債務者は各地方別に債務開を作り

債務者の負擔とする

▲債務者は各地方別に債務開を作り

債務者の負擔とする

▲債務者は各地方別に債務開を作り

債務者の負担とする

